

第2次糸島市長期総合計画策定におけるまちづくり市民委員会

～みんなで語ろう！

糸島の魅力について～



糸島 ミライ Café

令和2年2月

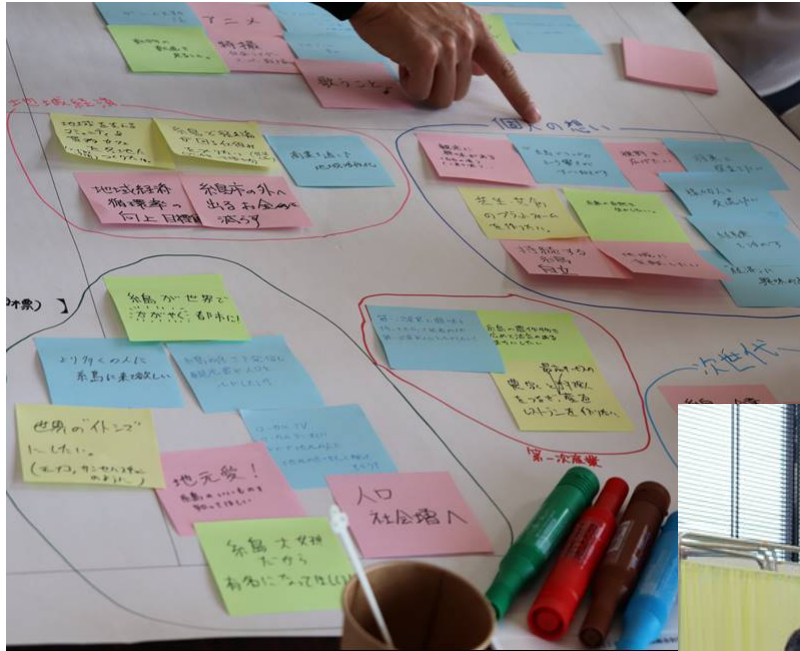
ワークショップ まとめ



目 次

1. ワークショップの概要	1
(1) ワークショップの目的	1
(2) ワークショップのテーマ	1
(3) 各分科会の内容について	1
(4) ワークショップのスケジュール	2
(5) ワークショップのプロセス	2
2. ワークショップの手法	3
(1) ワークショップとは	3
(2) 「ワールド・カフェ」とは	3
(3) 「KJ法」とは	3
(4) 「ワールド・カフェ」の特徴	3
(5) まとめ方	3
3. 結果の概要	4
■第1回 糸島 ミライ Café	4
■第2回 糸島 ミライ Café	5
■第3回 糸島 ミライ Café	5
■第4回 糸島 ミライ Café	8
■第5回 糸島 ミライ Café	9
■総括 糸島 ミライ Café	10
4. 資料編	11

※参加者に記入していただいたシートの内容については、極力そのまま掲載しています。



1. ワークショップの概要

(1) ワークショップの目的

糸島市では、平成30年度～令和2年度にかけて第2次糸島市長期総合計画を策定します。

計画の策定にあたって、平成30年度では、これからの糸島市の姿を市民といっしょに考えるために、「ワールド・カフェ」方式による語り合いを中心としたワークショップを実施しました。

また、令和元年度では、分科会ごとにワークショップを実施し、参加者自身が興味のある分野に属し、具体的な取組について検討を行いました。

(2) ワークショップのテーマ

各分科会で検討



(3) 各分科会の内容について

下記の6つの分科会を設定し、参加者の希望を募ってワークショップを実施しました。

- 「1. 未来に輝く子どもを育むまちづくり」(【政策:子育て支援 学校教育 文化・芸術 青少年の健全育成・スポーツ振興】)
- 「2. 人と人がつながり助け合うまちづくり」(【政策:コミュニティ・人口減少対策 生涯学習 男女共同参画・多文化共生・人権】)
- 「3. みんなの命と暮らしを守るまちづくり」(【政策:防災・減災 消防 防犯・交通安全】)
- 「4. 健康で安心して暮らせるまちづくり」(【政策:健康・医療 高齢者福祉 障害者福祉 地域福祉】)
- 「5. 糸島ブランドで活気あふれるまちづくり」(【政策:観光 第1次産業 地域経済 企業誘致】)
- 「6. 快適で住みよいまちづくり」(【政策:都市機能 交通環境 地域内交通 上下水道 環境】)

(4) ワークショップのスケジュール

	内 容(案)
第 1 回 (6 月 15 日)	■30 年度の取組結果の報告 ■計画体系(案)の説明 ○基本目標ごとに分科会の設置(※各分科会の班分け) ○分科会(テーマ)への思い
第 2 回 (8 月 24 日)	○将来像選考(※予定) ○分科会ごとにワークショップを行い、具体的な取組を検討
第 3 回 (9 月 28 日)	○分科会ごとにワークショップを行い、具体的な取組を検討
第 4 回 (10 月 19 日)	○第 1～3 回の分科会で検討した取組を全体で意見交換 ○その後、分科会でワークショップを行い再検討
第 5 回 (11 月 16 日)	○第 4 回の全体意見交換や分科会を踏まえ、具体的な取組内容の取りまとめ

(5) ワークショップのプロセス

全5回のワークショップにおいて、各回で明確に検討内容を設定し、ワークショップを実施しました。

ワークショップの実施にあたっては、「語り合い」を中心とした「ワールド・カフェ方式」と「思考・検討」を中心とした「KJ法」を組み合わせた手法を用いました。



2. ワークショップの手法

(1) ワークショップとは

ワークショップとは、先生や講師から一方的に話を聞くのではなく、参加者が主体的に論議に参加したり、言葉だけでなくからだやこころを使って体験したり、相互に刺激し合い学び合う、グループによる学びと創造の方法です。

(2) 「ワールド・カフェ」とは

「知識や知恵は、管理されがちな会議室で生まれるのではなく、人々がオープンに会話を行い、自由にネットワークを築くことのできる“カフェのような空間”でこそ創発される」という考え方に基づいた、話し合いの方法の一種です。

(3) 「KJ法」とは

1枚の紙（付箋紙）に1つずつアイデアを書き込んでいき、それぞれの位置を移動させながら、全体を俯瞰して、整理整頓するアイデア発想方法の一種です。

(4) 「ワールド・カフェ」の特徴

- ・アイデア出しをする際に効果的な手法です
- ・年齢や職業にとらわれない参加者同士の自由な対話を行えます
- ・本物のカフェのようにリラックスした雰囲気の中で、テーマに集中した対話が可能です
- ・自分の意見を否定されず、尊重されるという安全な場で、相手の意見を聞き、つながりを意識しながら自分の意見を伝えることにより生まれる「場の一体感」を味わえます

(5) まとめ方

今年度のまちづくり市民委員会（ワークショップ）では、昨年度のようなシートは使わず、あらかじめ、模造紙に枠組みを作成し、付箋紙を用いて、直接、意見を書いていただきました。

3. 結果の概要

■第1回 糸島 ミライ Café

令和元年 6月15日 (土) 14:00~

第1回はスタートアップワークショップの要素も含めて、自分で選んだ分科会について、「想い」を検討しました。

【分科会への想い(目標・キーワード)】(抜粋)

■分科会1 <未来に輝く子どもを育むまちづくり>

- つながり
- 居場所
- 地域・教育
- 学校教育
- 相談・窓口

■分科会5 <糸島ブランドで活気あふれるまちづくり>

- 地域経済
- 情報発信・ブランド発信
- 観光

■分科会2 <人と人がつながり助け合うまちづくり>

- つながり
- 気軽に集まれる場所づくり
- 他人事ではなく自分の事のように考えて活動

■分科会6 <快適で住み良いまちづくり>

- つながり
- 気軽に集まれる場所づくり
- 環境・交通

■分科会3 <みんなの命と暮らしを守るまちづくり>

- 避難訓練
- 公共交通
- 高齢者

■分科会4 <健康で安心して暮らせるまちづくり>

- 高齢者の医療
- 移動・居場所
- 関わり方・理解



■第2回 糸島 ミライ Café

令和元年 8月 24日 (土) 14:00~

■第3回 糸島 ミライ Café

令和元年 9月 28日 (土) 14:00~

第2回・第3回は分科会ごとにワークショップを行い、それぞれの各分科会（テーマ）で「困っていること」（課題）、「具体的な取組」（解決策）、「理想の姿」（成果）について、具体的な内容を検討しました。また、第3回の後半は各内容について、「優先順位」を検討しました。

【困っていること(課題)】(抜粋)

■分科会1 <未来に輝く子どもを育むまちづくり>

- つながりが無い
- 話を聞いてくれる場所がわからない
- 親も子ども居場所がない
- 子どもが意見を言えない
- 地域全体で子どもを育てる環境づくりが必要
- 各種相談(育児相談等)の強化

■分科会5 <糸島ブランドで活気あふれるまちづくり>

- 糸島ブランドが第1次産業のみになっている
- 市内で地域差がある
- 新しい産業を創出する必要がある
- インバウンドの受け入れ
- 若者の流出
- 人材確保・採用が困難
- 地域経済循環率が悪い
- 九大と市事業者との連携
- 空き家の有効活用

■分科会2 <人と人がつながり助け合うまちづくり>

- 新住民(移住者)との関わり方
- 子どもの遊び場が少ない
- 地域での交流が少なくなっている
- 交通手段がない

■分科会6 <快適で住み良いまちづくり>

- 市民体育館の利活用
- 交通の不便
- 病院までのアクセス改善
- 災害時の対応

■分科会3 <みんなの命と暮らしを守るまちづくり>

- 避難所の見直し
- 通学路の拡幅
- ため池の改修
- 消火栓・防火槽の数量不足

■分科会4 <健康で安心して暮らせるまちづくり>

- 交通手段の不足
- 高齢者医療の問題
- 福祉人材の不足
- 高齢者の移動手段
- 医療施設(総合病院等)が不足
- 地域福祉の向上
- 寄り合う場が遠い



【具体的な取組(解決策)】(抜粋)

■分科会1 <未来に輝く子どもを育むまちづくり>

- 子どもの情報を一元化する
- 気軽に相談できる場
- 教育委員会と市民が話し合える場を設ける
- 公立以外の学校や学びの場を選択できるように
- 子育て支援に関する包括的な組織とシステムづくり
- コミュニティスクールの活用、プレパーク等の場所を増やす

■分科会2 <人と人がつながり助け合うまちづくり>

- 人が集まるような取組・行事の実施
- 地域のPR動画を作成
- 市街化調整区域の緩和
- SNSによる情報発信

■分科会3 <みんなの命と暮らしを守るまちづくり>

- 防犯・交通安全の訓練・講習等を地域で実施
- AEDを各行政区に設置し、訓練を行う

■分科会4 <健康で安心して暮らせるまちづくり>

- 地域の集まりに参加(施設のイベント・地域の祭)
- 情報交換(学校と介護施設)
- 高齢者と子どもが一緒にいることができる場をつくる
- コミュニティバスの増便
- 高齢者のバス利用無償化
- 民間の病院誘致
- 急患の受け入れ体制の充実
- 空き家の有効活用

■分科会5 <糸島ブランドで活気あふれるまちづくり>

- 観光分野での糸島ブランド
- 仕事の創出
- 企業の支援
- 様々な媒体との連携・コラボレーション
- 交通インフラ・施設への取組

■分科会6 <快適で住み良いまちづくり>

- 公共交通の向上
- SNSによる各種情報発信
- 新しい交通手段の確立
- 目的別循環バス
- 現状の交通手段の検証



【理想の姿】(成果) (抜粋)

■分科会1 <未来に輝く子どもを育むまちづくり>

- 子育てしやすい糸島
- 子どもが夢を持てる
- 学ぶ場を選べる
- 相談できる場がある
- 学校を中心に子どもを取り巻く地域住民や団体が連携する

■分科会2 <人と人がつながり助け合うまちづくり>

※第2回目・第3回目ではまとまらず。第5回目で明記

■分科会3 <みんなの命と暮らしを守るまちづくり>

- 上水道の整備
- 通勤・通学に困らないまち
- 夜間が明るくて犯罪が少ないまち
- 災害のないまちづくり

■分科会4 <健康で安心して暮らせるまちづくり>

- コミュニティバスや乗合タクシーなど、ドライバーの確保
- 急患・夜間でも市内で十分な治療が受けられる
- 病院の送迎が充実している

■分科会5 <糸島ブランドで活気あふれるまちづくり>

- ブランドイメージの統一化(糸島と言えば○○○○○)
- それぞれの分野でもブランドを構築
- 糸島で働ける環境(糸島で働きたい)
- 地域経済循環率の向上
- 高付加価値サービスを追求する
- 地域課題をビジネスとする
- 中小企業支援(中小企業振興条例の制定)

■分科会6 <快適で住み良いまちづくり>

○※第2回目・第3回目ではまとまらず。第5回目で明記



■第4回 糸島 ミライ Café

令和元年 10月19日(土) 14:00~

第4回は、第1~3回の分科会で検討した取組を中間報告として全体で意見交換を実施し、その後、分科会でワークショップを行い、内容の再検討を行いました。

【中間報告会の様子】(抜粋)



■第5回 糸島 ミライ Café

令和元年 11 月 16 日 (土) 14 : 00 ~

第5回は、第4回の全体意見交換や分科会を踏まえ、具体的な取組内容の取りまとめを行い、最後に各部会で提言書を作成しました。

【提言書内容】(優先順位が上位の内容を抜粋)

	課題(困っていること)	具体的な取組内容(解決策)	成果(理想の姿)	活かすべき糸島市の資源
<分科会1> 未来に輝く 子どもを育む まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○情報が必要な人に行き届いていない ○格一主義の教育 ○子ども関連事業にボランティアが不足している 	<ul style="list-style-type: none"> ○検診時のあごらの待合を充実させる ○学校やそれ以外の学びの場の選択肢があり、可視化されている ○ボランティアの管轄を市が担う 	<ul style="list-style-type: none"> ○選択肢が増えて拠り所ができる ○子どもが自分で学びたいことを決められる ○地域住民全員が全員を支え合う 	<ul style="list-style-type: none"> ○あごら ○子どもたち ○学生(中学～大学生)
<分科会2> 人と人がつながり 助け合う まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○新旧住民との交流が少ない(地域・文化・世代間) 	<ul style="list-style-type: none"> ○全世代が地域イベントの企画運営に参加する(ジュニアリーダー・大学生) 	<ul style="list-style-type: none"> ○参加者が増えて、全世代の交流が深まり、地域の絆が強くなる 	<ul style="list-style-type: none"> ○九大生 ○ジュニアリーダー
<分科会3> みんなの命と暮らしを守る まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○災害時の行動 	<ul style="list-style-type: none"> ○避難訓練の実施 ○消防団員の増員 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の身は自分で守る ○地元を地元で守る 	<ul style="list-style-type: none"> ○市民
<分科会4> 健康で安心して暮らせる まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○交流が希薄化している ○高齢者の移動手段 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもや高齢者、多様な人が集まる場所をつくる ○コミュニティバスの路線・回数を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ○孤立化がなくなる ○高齢者の外出機会の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ○公民館 ○子どもが集まる場所 ○民間バス企業
<分科会5> 糸島ブランドで活気あふれる まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○人づくり ○若者流出と戻ってきて働く場所がない(魅力的な仕事場がない) ○市外から訪れる人のために有効な交通機関がない 	<ul style="list-style-type: none"> ○地元経営者(企業)と若者の交流の場づくり ○バスの運行の再考 	<ul style="list-style-type: none"> ○若者が地元で就職 ○車がなくても糸島の魅力を満喫できる 	<ul style="list-style-type: none"> ○活躍する先輩経営者 ○豊富な訪問のテーマ
<分科会6> 快適で住み良い まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ○交通が不便(交通網はあるが数が足りない)(来たバスには人が乗っていない) 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域内交通、拠点間交通、都市機能、緊急車両(タクシー)、観光バスをつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ○空車率の低下、本数の増加(利便性) ○病院・通学が容易、渋滞の緩和、安全性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○製造業(農産物・水産物) ○自然資源、歴史資源、観光資源を活かした仕事を!

■総括 糸島 ミライ Café

今年度の「糸島 ミライ Café」では、6つの分科会（「1. 未来に輝く子どもを育むまちづくり」「2. 人と人がつながり助け合うまちづくり」「3. みんなの命と暮らしを守るまちづくり」「4. 健康で安心して暮らせるまちづくり」「5. 糸島ブランドで活気あふれるまちづくり」「6. 快適で住みよいまちづくり」）を設定し、参加者の希望を募ってワークショップを実施しました。

参加者の関心があるテーマに基づいてワークショップを実施したことから、それぞれの各分科会（テーマ）で「困っていること」（課題）、「具体的な取組」（解決策）、「理想の姿」（成果）について、新旧住民との交流や情報受発信、市内交通の利便性など、移住者が多く、海・山・市街地等の地域性が課題に上がるなど、糸島市の特性を捉えた内容が多く出ていました。

具体的な取組内容については、第2次糸島市長期総合計画の前期基本計画において、実施を検討します。成果についても各施策が目指す姿と共通する部分が多く、また、「活かすべき糸島市の資源」では、「市民」や「地域住民」に加え、「九州大学」「学生」との連携を検討している分科会も多くなっていました。九州大学の伊都キャンパスへの移転完了を契機に、これまでの九州大学との連携・交流の取組から、さらに九州大学が持つ知的資源を活用した地方創生や地域課題の解決など、具体的な取組・成果を出して行く必要があります。

第5回で作成した「提言書」においては、コミュニティや人とのつながりを軸にして、子育て・教育、防災、農林水産業をはじめとするブランドのあり方も提案されています。その中で、「協働」や「連携」といったキーワードも多く上がっていることから、将来的な人口減少や超高齢社会を見据え、行政・地域・市民・企業など、それぞれが連携を図りながら、本市の貴重な地域資源を生かしたブランド力をさらに強化し、住みやすい・住み続けたいと思える「持続可能なまちづくり」に取り組むことが重要となります。



4. 資料編

■第1回 糸島 ミライ Café “分科会への想いシート”の内容

■分科会1 (①) <未来に輝く子どもを育むまちづくり>

分科会への想い	内 容
人生	○自分の人生をデザイン ○現役世代の就労 ○子育ての孤立化 ○将来の糸島を考える人を育てる
つながり	○子どもの見守り ○大人と子どものつながり ○産後ママの現状を知ってほしい ○ママが元気で笑顔になったら子どもも元気になる ○子どもと学校のつながり ○縦と横のつながり
居場所	○子どもの遊び場づくり ○多様な学び場 ○子どもの居場所 ○子どもの居場所 ○自分らしくあふれる場所
地域	○子育てしやすい糸島！！って言いたい ○子育てのコミュニティ ○産後ママが笑顔になれる環境をつくりたい ○田舎で子育てする魅力(都会とのちがい) ○子どもの遊び場所
学校教育	○学校外のあいさつ ○学ばせる環境 No.1 のいとしま ○学校経営の ICT 活用 ○学習の機会
教育、子育てシステム	○子育ての情報をもっと見やすくわかりやすく！！ ○目的を明確化した学びの仕組みづくり ○海外の教育事例研究 ○文化資本 ○くらし+遊び+まなび ○情報を知りやすい(子育て関係)
教育の中身	○いとしま学のさらなる発展 ○赤ちゃんとふれあう 子育て科(??) ○英語を話せる人を増やす ○食
その他	○たまり場、拠点の拡がりをも ○たまり場の必要性 ○循環 ○世代を超えて ○市外 それ以外 ギャップ ○アクセス手段がない ○不安 動けない ○情報格差

■分科会 1 (2) <未来に輝く子どもを育むまちづくり>

分科会への思い	内 容
	糸島っ子を育てよう！
学校以外の場所	<ul style="list-style-type: none"> ○思いきり遊べる場所と時間 ○子どもが笑えるトコロ(場所)をつくろう ○居場所づくり ○大きい公園がほしい→舞台のあるスケボーパークとか、マイナー環境 ○放課後の居場所、プレパーク ○引きこもりの子の訪問支援、メンタルフレンド ○不登校の子の居場所をつくりたい ○子どもが輝けるために。ダメダメ言われない時間と場所づくり
教育に対するの思い	○子どもが自分の意見を言える！！ ○子どもの好きな事をのばす時代 ○子どもが笑顔でいれる環境
学校教育	<ul style="list-style-type: none"> ○糸島中学の校則 きびしいのでなくていい ○部活動いる？ ○中学校の評価 ○フリースクールに通っている子を出席扱いにしてほしい ○糸島市！ ○フリースクールにも学費補助を。高いです… ○学校以外の多様な学びの選択を。どんな子どもでも選べること ○学校の本当の意味 ○宿題多すぎ、遊び時間ないよー ○もく食、もくそうじ、もくどうはいらない ○宿題の選択、ランドセルとかばんの選択 ○公立の学校教育を子どもにとって楽しい教育に ○学校の運動会のあり方 ○学校に通っている子に、学校以外の選択肢の情報を伝える ○フリースクール、相談場所(適応教室以外) ○PTAの入退会届
幼児教育	○小規模保育は実現可能？ ○待機児童(13人→116人) ○幼少期の教育
いじめ、個性	○みんなと一緒にじゃないとだめ？ ○いじめ
お母さん	<ul style="list-style-type: none"> ○地下鉄でアナウンス ○「お母さん」が生きにくそう ○お母さん働きにくい ○働いている人以外のお母さんの子育て支援
お父さん	○育児参加してますよ

■分科会1（③）＜未来に輝く子どもを育むまちづくり＞

分科会への想い	内 容
スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもがたくさんスポーツできる地域に！！（場所やイベント） ○大きいグラウンドをもっとたくさんつくり、スポーツのふれあいの場をもうける ○公園 ○子どもが外で遊べるような環境づくりを！ ○スポーツ大会をする ○市の総合体育館の建設を ○本にふれる、読書できる施設や運動ができるよう公園やアスレチック設置
文化	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちにたくさんの自然体験を！（農業体験や自然の物で遊ぶ） ○地元の文化を子どもたちに受け継ぐ ○糸島の芸術を広める（文化発表会など開いて） ○習い事や部活動クラブの強化（色んなことに興味をもち、挑戦できるよう）
乳幼児	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの頃から英語教育をする（簡単な単語とか） ○市として乳幼児をもつ親への教育をしてほしい ○子どもは乳児、幼児の時の環境で変わる ○シングルで子育ていっぱい、いっぱいの人がいる ○小学校の教育に本格的に英語を導入する（ライティング） ○育児の知識のアップデート
ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティアで子どもをみているが、ボランティアをする人がいない
スマホ	<ul style="list-style-type: none"> ○スマートフォンの使い方の指導（学校へ持って行っても良くなるため）
地域・教育	<ul style="list-style-type: none"> ○地域とふれあう機会がたくさんある学校教育に ○地域全体で子どもを育てる環境づくり ○子どもが安全に安心して暮らすことのできる社会に ○地域全体で子どもを育てる（子どもとの関わりを増やす） ○昔は異年齢で遊んでいた ○学習スペースを増やす図書館を増やす ○イベントで親と子どもが楽しめるものを増やす ○近所のおじちゃん、おばちゃんが話を聞いてくれた（息子） ○未就学児向けの子育て施設 ○不登校生徒 楽しく明るくかよえる学校づくり ○一時保育 ○保育園の充実 保育園などを増やし、小さい子どもにたくさんの事を学ばせる機会をつくる
相談・窓口系	<ul style="list-style-type: none"> ○相談相手がほしい ○問題解決の窓口 ○孤独にならない窓口
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ○学校などにいじめに対する取り組みを強くする ○貧困、いじめ、虐待などで悲しむ子を一人でも減らしたい ○道徳の授業の改善（いじめ、思いやり、一般常識など） ○自分は必要とされていると感じられたらガンバレ

■分科会2 (①) <人と人がつながり助け合うまちづくり>

分科会への想い	内 容
つながり	<ul style="list-style-type: none"> ○九大生と地域の方との交流の場を増やしたい ○ひとりぼっちにしない ○声をかけ合ってお互いの健康を確かめる ○ひとり暮らしの高齢者が多い地域で健康で安心して生活できるまちのお手伝いができること ○みんなが気軽に集まれる場所づくり ○人種、男女、世代に関わらず交わり、みんなでWIN、WINに楽しく ○他人事ではなく自分の事のように考えて活動をしていく ○きっかけづくり(コミュニケーションの) ○人口減少対策、今すぐ始めないと間に合わない ○年や性別に関係なく多くの人とつながりたい! ○人と人との絆をもっと深めるには…探求したくて! ○新住民とも交流(難しい) ○おしゃべりをする場所をつくる ○コミュニケーションが苦手→楽しいへ。コミュニケーションの大事さ ○人と付きあいの大事(特に高齢者)

■分科会3 (①) <みんなの命と暮らしを守るまちづくり>

分科会への想い	内 容
避難訓練	○避難訓練 ○学生以外の方の避難訓練
自然災害	○温暖化により大雨になり災害がおきる ○津波、高潮により災害防止 ○災害時の体制づくり
人員不足	○消防団員の確保 ○高齢者の流出
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ○公共工事でも災害対策 ○外灯を増やす ○川の増水時の安全対策 ○防災無線の充実 ○飛び出しボーヤの固定
情報	○情報を自分から得る ○携帯電話への情報の活用 ○情報をみんなで共有する
意識	○危機意識をもつ ○防災の意識 ○護身術を女性などに教える
高齢者	○健康検診 ○高齢者のためのスロープ作り ○高齢者への対応 ○高齢者の運転訓練

■分科会4（①）＜健康で安心して暮らせるまちづくり＞

分科会への想い	内 容
富山方式	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者の医療について考えてほしい ○子どもたちにも福祉の輪を広めたい ○高齢者が住みやすい地域づくり ○今後の人生を楽しく過ごしていく ○若者(働き手世代)(子ども)と高齢者との交流する機会を増やしたい ○障がい者の方々と交流する場や機会を増やしたい ○障がい者と直に接する機会を増やす
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○障がい者施設 人材不足 給料(低賃金) ○参加者の考えや思いを社協に持ち帰りたい ○丸ごと受け止める窓口を増やしたい ○社協で関わりのある方の声や思いを広めたい ○一人暮らしなどの高齢者の方々への、生活支援や訪問サポートをもっと増やしたい ○免許の事が関心事大 ○将来は医療や福祉関係の仕事に就いて、糸島で働きたい

■分科会4（②）＜健康で安心して暮らせるまちづくり＞

分科会への想い	内 容
移動・居場所	<ul style="list-style-type: none"> ○足を考えたい(交通) ○行政も住民の移動方法を考えてほしい ○弱者、高齢者を上げます ○高齢者の移動手段、コミュニティバスが少ない ○移動手段、便利を良くする ○障がい者の方の移動
関わり方・理解	<ul style="list-style-type: none"> ○障がいへの理解 ○障がい者の方の居場所が少ない ○障がい者の老後、GHも少ない ○高齢者や障がい者の現状について知りたい←若者はほとんど知らない ○障がい者の情報網がない。関わりづらい ○周りが声をかけあう、ご近所づきあい ○障がいがある子の地域とのかかわりがたい ○災害時にどうかかわるか？ ○1人で孤立させない ○障がいがあってもなくても困っている人が相談できる
食べる	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者社会になり、食事(栄養)が心配(どうしていくか) ○高齢者デイサービス拒否などの方の見守りは？ ○高齢者の栄養が悪化している

■分科会5（①）＜糸島ブランドで活気あふれるまちづくり＞

分科会への想い	内 容
地域経済	<ul style="list-style-type: none"> ○地域を支えるコミュニティ&買物カフェを各地につくりたい(フードロス活用) ○糸島で経済が回る仕組みをつくりたい(プレイヤーを増やす)(外注しない) ○商業を通じた地域活性化 ○地域経済循環率の向上目標値 ○糸島市の外へ出るお金を減らす ○経営者勉強会
情報発信・ブランド発信	<ul style="list-style-type: none"> ○糸島が世界で「かがやく」都市に！ ○より多くの人に糸島に来てほしい ○糸島の良さを発信し、観光客や人口を増やしたい！ ○世界の「イトシマ」にしたい(モナコ、サンセバスチャンのように) ○糸島独自の交通 ○地元愛！糸島のいいものを知ってほしい ○糸島大好き！だから有名になってほしい！ ○ローカルTV、ローカルラジオ(?)などで地元の人に、地元の良さをもっと知ってもらう ○人口社会増へ ○伊都国を知ってほしい
第一産業	<ul style="list-style-type: none"> ○第一産業に興味をもってもらって、若者の人の第一産業人口を増やしたい ○地酒をつくる！ ○糸島の農産物を広めて活気のあるまちにしたい ○農家と料理人をつなぎ、最高のサービスの産直レストランを作りたい
次世代	<ul style="list-style-type: none"> ○糸島の企業の魅力UP ○学生に糸島の企業を知ってもらう ○九大とコラボして新しい産業が生まれる場所にしたい ○イキイキと働く大人を糸島に増やしたい ○ワークライフバランス
個人の想い	<ul style="list-style-type: none"> ○観光に興味がある(白糸の滝、二見ヶ浦) ○『糸島ブランド』という響きがすごく好きです ○視野を広げたい ○将来に役立てたい ○共生、共創のプラットフォームを作りたい ○糸島の自然を生かしたい ○様々な人と交流したい ○九大の留学生などに意見をもらう ○持続する糸島自立 ○地域に貢献したい ○経験を活かす ○「経済」に興味がある

■分科会5（②）＜糸島ブランドで活気あふれるまちづくり＞

分科会への想い	内容
経済	<ul style="list-style-type: none"> ○どこでも働ける人が、あえて糸島を選ぶ理由をつくる ○糸島でできる仕事とは ○糸島のことについて知る ○つきたい仕事がある糸島 ○どこでもできる仕事を探す ○Uターン 10年振りに
観光	<ul style="list-style-type: none"> ○インスタ映えのスポットを巡るツアー ○インスタ映え ○糸島内をどうやって移動するか
ブランド	<ul style="list-style-type: none"> ○最近、糸島への観光客が増えていて、興味があったから ○特に漁業の活性化をどうするか？ ○地域内経済循環にも関心あり ○一目見たらわかる知名度の高いブランド！ ○何がブランドになるのか？どうすればブランドになるか？ ○他にない稀少性→ブランド ○糸島ブランドとは観光地(自然)→イメージ化、糸島産ブランド

■分科会5（③）＜糸島ブランドで活気あふれるまちづくり＞

分科会への想い	内容
産業	<ul style="list-style-type: none"> ○糸島への大企業誘致 ○糸島ブランドを食の分野から他の分野へ ○減少していく中小、零細企業をなくす ○市場での価値の維持 ○観光による地域活性 ○5分科会を選んだ理由 地域経済の発展
開発のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ○とにかく極力、自然を残す ○何を残し、何を捨てるのかを決めていく ○自然、文化保護 ○最小限のコストと開発で糸島をもりあげる
観光	<ul style="list-style-type: none"> ○糸島を訪れた人に喜んでほしい ○観光の人との交流を行い、糸島の魅力を再発見する ○糸島のいい所を他の地域の人にも知ってもらいたい ○都市と田舎の交流 ○中学生や高校生との交流を行い、観光地にするためにはどんなことをすればよいか意見を出し合う ○糸島のまだ知らない良い所やおいしい物をたくさんの人に知ってもらおう ○たくさんの人が訪れやすいイベントを作る ○糸島の自然などを知ってもらって、他県の人や観光客にたくさん来てもらう ○宿泊施設の充実
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○移住定住 ○いずれ人口減少するので、そこへの対応を考える
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○地域資源の再発見 ○役に立ちたい人が実際に役に立つしくみ作り ○リサイクル、地域資源 ○それぞれの地域の特色を活かしたまちづくり ○林業復活 ○放置竹林を有効活用する
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○福岡に寄りそいながらも、ないもの、できないものを提案する ○横のつながりを大切にして、型をつくる

■分科会6（①）＜快適で住み良いまちづくり＞

分科会への想い	内 容
モビリティ	○九大の研究する交通システムの実験が市でできれば。 ○スマートモビリティを導入したい(例:AIバス) ○エコ×低コスト交通 新しい魅力！！ ○事故 ○循環線(病院線)
都市計画	○コンパクトシティ化の推進 ○コンパクトシティ実現 ○Society5.0に基づく都市計画 ○メディカルゾーン集約！ ○快適 →すごしやすい →健康的 →運動できる場所 →だれでも利用できるスポーツセンターをつくる(体育館、グラウンド、弓道場、野球など←ヶ所に集める) ○丸田池をうめる！！
都市・建築	○きれいな町 ○景観に配慮 ○古い建物、保存できる？ ○自然を活かした交通×観光(川下りなど) ○空き家を活用？
その他	○コンビニを増やす
その他	○エネルギー[バイオマス発電、リサイクル発電]
その他	○多様な糸島市民の方々の声を知りたい！

■分科会6（②）＜快適で住み良いまちづくり＞

分科会への想い	内 容
環境	○におい問題
交通	○公共交通機関の充実 ○交通機関の利便性 ○交通環境、気軽に足を延ばせる糸島 ○交通環境 ○都市機能、交通環境
その他	○定住者にやさしい環境づくり ○空き家の活用に対する補助

第2回まちづくり市民委員会 検討内容

■分科会1 <未来に輝く子どもを育むまちづくり>

分科会1-①



分科会1-②



分科会1-③



■分科会2 <人と人がつながり助け合うまちづくり>

第2次水島市長期総合計画策定に係るまちづくり市民委員会

第2・3回 【2. 人と人がつながり助け合うまちづくり】分科会①

- 政策：コミュニティ・人口減少対策、生涯学習、男女共同参画・多文化共生・人権
- 分科会への想い：キーワード

【つながり】

メンバー： 〇〇、△△、□□、◇◇、☆☆、〽️

課題（気づき）

課題（気づき）	具体的な取組内容（解決策）	成果（理想の姿）
地域コミュニティの活性化	地域交流イベントの開催、住民同士の交流促進	地域住民の絆が深まり、互いに支え合える関係が築ける
高齢者の生活支援	高齢者見守り隊の活動、生活相談会の開催	高齢者の生活が豊かになり、安心して暮らせるようになる
子育て支援の充実	子育て相談窓口の設置、親子交流イベントの開催	子育てがしやすくなり、子どもたちが元気に育てるようになる
障害者の社会参加	障害者支援センターの整備、社会参加の場の提供	障害者の社会参加が進み、活躍の場が増えるようになる
外国人住民への支援	外国人住民向けの日本語教室の開催、相談窓口の設置	外国人住民が安心して生活でき、地域社会の一員として活躍できるようになる

■分科会3 <みんなの命と暮らしを守るまちづくり>

第2次水島市長期総合計画策定に係るまちづくり市民委員会

第2・3回 【3. みんなの命と暮らしを守るまちづくり】分科会①

- 政策：防災・震災、消防、防犯・交通安全
- 分科会への想い：キーワード

【避難訓練 自然災害 人員不足 公共交通 情報 意識 高齢者】

メンバー： 〇〇、△△、□□、◇◇、☆☆、〽️

課題（気づき）

課題（気づき）	具体的な取組内容（解決策）	成果（理想の姿）
防災意識の向上	防災訓練の開催、防災知識の普及啓発	住民の防災意識が高まり、災害発生時に適切な対応ができるようになる
消防力の充実	消防団の強化、消防器具の整備	迅速な対応と火災の抑え込みが実現し、被害を最小限に抑えられるようになる
防犯対策の徹底	防犯パトロールの強化、防犯カメラの設置	犯罪発生率が低下し、安全なまちづくりが実現されるようになる
交通安全の確保	交通安全教室の開催、歩行者優先のまちづくり	交通事故発生率が低下し、誰もが安心して利用できるまちになるようになる
公共交通の利便性の向上	公共交通機関の充実、高齢者への配慮	公共交通機関が利用しやすくなり、高齢者や障害者も安心して利用できるようになる

■分科会5 <糸島ブランドで活気あふれるまちづくり>

第2次糸島市長期総合計画策定に係るまちづくり市民委員会
第2・3回【5. 糸島ブランドで活気あふれるまちづくり】分科会①

- 政策：観光、第1次産業、地域経済、企業誘致
- 分科会への想い：キーワード

【地域経済 情報発信・ブランド発信 第一産業 次世代 個人の想い】
メンバー：(小笠原) 小笠原 幸、小笠原 幸、小笠原 幸、小笠原 幸

課題 (困っていること)	具体的な取組内容 (解決策)	成果 (理想の姿)
観光客の誘致 観光客の滞在 観光客の消費	観光客の誘致 観光客の滞在 観光客の消費	観光客の誘致 観光客の滞在 観光客の消費
観光客の滞在 観光客の消費	観光客の滞在 観光客の消費	観光客の滞在 観光客の消費
観光客の消費	観光客の消費	観光客の消費

その他
観光客の消費

■分科会6 <快適で住み良いまちづくり>

第2次糸島市長期総合計画策定に係るまちづくり市民委員会
第2・3回【6. 快適で住みよいまちづくり】分科会②

- 政策：都市機能、交通環境、地域内交通、上下水道、環境
- 分科会への想い：キーワード

【環境 交通 その他】
メンバー：(小笠原) 小笠原 幸、小笠原 幸、小笠原 幸、小笠原 幸

課題 (困っていること)	具体的な取組内容 (解決策)	成果 (理想の姿)
交通環境 地域内交通 上下水道	交通環境 地域内交通 上下水道	交通環境 地域内交通 上下水道
地域内交通 上下水道	地域内交通 上下水道	地域内交通 上下水道
上下水道	上下水道	上下水道

その他
交通環境

第3回まちづくり市民委員会 検討内容

■分科会1 <未来に輝く子どもを育むまちづくり>

分科会1-①



分科会1-②



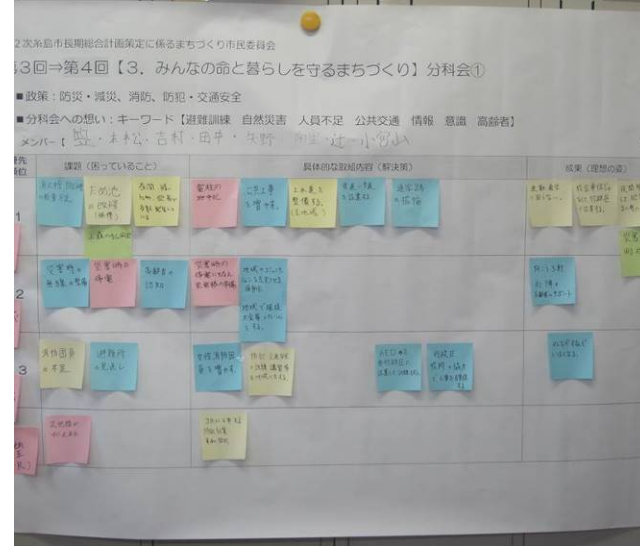
分科会1-③



■分科会2 <人と人がつながり助け合うまちづくり>



■分科会3 <みんなの命と暮らしを守るまちづくり>

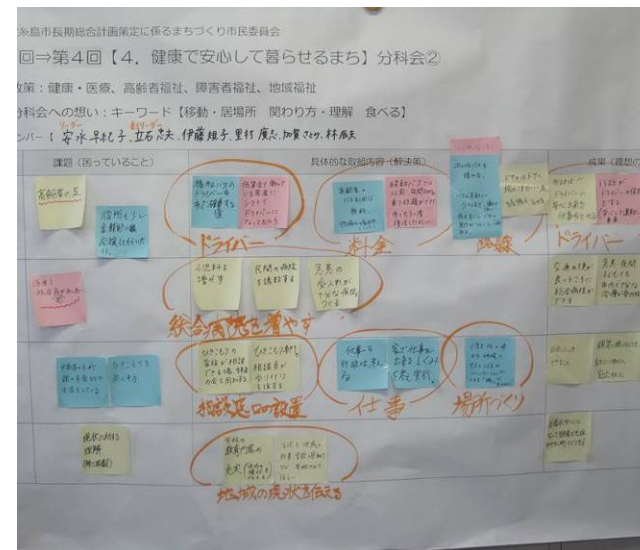


■分科会4 <健康で安心して暮らせるまちづくり>

分科会4-①

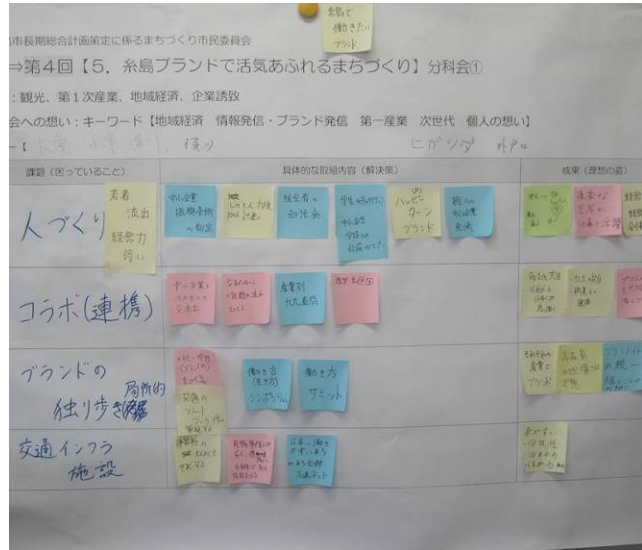


分科会4-②



■分科会5 <糸島ブランドで活気あふれるまちづくり>

分科会5-①

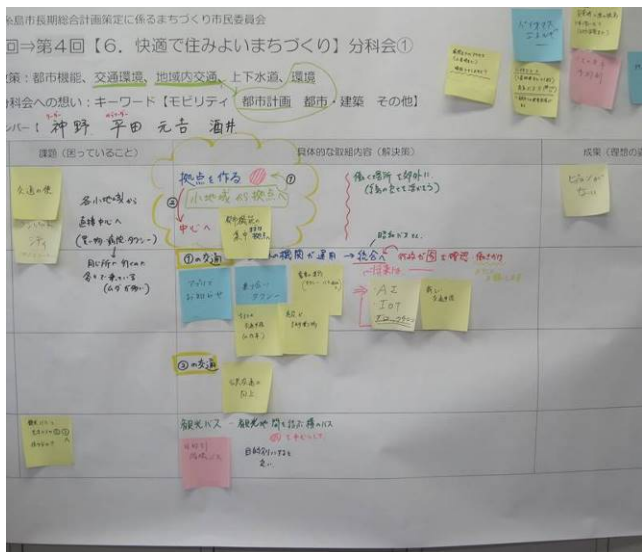


分科会5-②

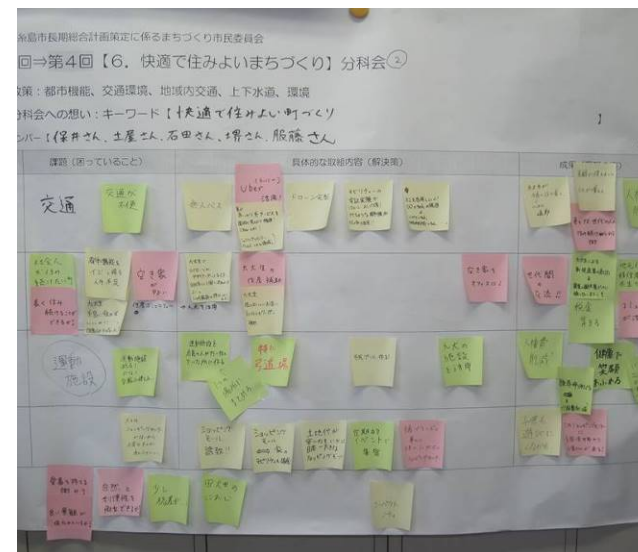


■分科会6 <快適で住み良いまちづくり>

分科会6-①



分科会6-②



■第5回まちづくり市民委員会 提言書内容

■分科会1 <未来に輝く子どもを育むまちづくり> <①提案書>

(【政策：子育て支援 学校教育 文化・芸術 青少年の健全育成・スポーツ振興】)

優先順位	課題(困っていること)	具体的な取組内容(解決策)	成果(理想の姿)	活かすべき糸島市の資源
1	情報が必要な人に行き届いていない	☆検診時のあごらの待合を充実させる →ネットも活用・バラバラの情報を集める (情報を集める・集まる場所) ・赤ちゃんサロン ・子育てサロン(民間含め) ・子育て講座(民間含め) ・子育て相談(妊娠中～思春期などなど) ・不登校支援 ・子ども食堂	選択肢が増えて拠り所ができる あごらに行けば情報はゲット!!できる!!(ネットでも)	あごら 民間団体 九大生 教育系サークル
2	子育て支援やりたい人はいるけど、場所がない!!!	☆市民や民間団体が活躍できる場を提供、支援 ・子ども食堂 ・子育て講座 ・教室 ・赤ちゃんサロン ・不登校支援 ・子育て相談	子育て支援のアイデアが増える サービスをほしい人とやりたい人がつながれる	あごら 公民館 図書館 民間団体
3	若い世代の流出	高校生留学支援 →帰国後レポート、講演	様々な知見の紹介 糸島で活躍できる 若い世代増える	学生の意欲 九大

■分科会1 <未来に輝く子どもを育むまちづくり> <②提案書>

(【政策：子育て支援 学校教育 文化・芸術 青少年の健全育成・スポーツ振興】)

優先順位	課題（困っていること）	具体的な取組内容（解決策）	成果（理想の姿）	活かすべき糸島市の資源
1	<p>格一主義の教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校の数が県内で<u>1番多いのが現実</u> ・ブラック校則が存在しているが、そもそも<u>ブラックだと気がついていない学校も保護者もいる</u> 	<p>①自分の学びを自分で決められる仕組みデザイン！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校やそれ以外の学びの場の<u>選択肢</u>があり、<u>可視化</u>されている <p>②①をサポートする体制を作る！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育に携わる専門分野の横のつながりと情報共有 ・当事者と上記をつなぐパイプをつくる ・当事者同士のつながりの場をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校が<u>減る</u>(不登校という概念が<u>なくなる</u>) ・子どもが自分で学びたいことを<u>決められる</u> ・<u>多様性のある社会</u>になる ・どんな教育の選択をしても、<u>金銭的な負担が増えない</u> ・学校内に「親カフェ」をつくる 例：福岡市東区の事例 ・定例会オープンに 	<ul style="list-style-type: none"> ・予算！ ・専門人員 ・子どもたち ・住んでいる人たち
2	<ul style="list-style-type: none"> ・適応指導教室以外の不登校対応がない。<u>居場所も対応する人も不足している</u> ・<u>こどもの権利条約</u> 教育機会確保法 不登校児童生徒への支援の在り方についての通知等が教育の現場に浸透していない 			
3				
<p>「居場所」の定義：自分が周りを気にせず、1人でも居心地よく過ごせる場所であることが原則</p>				

■分科会1 <未来に輝く子どもを育むまちづくり> <③提案書>

(【政策：子育て支援 学校教育 文化・芸術 青少年の健全育成・スポーツ振興】)

優先順位	課題（困っていること）	具体的な取組内容（解決策）	成果（理想の姿）	活かすべき糸島市の資源
1	子ども関連事業(プレパーク・子ども食堂・わいわい広場等)のボランティアが不足している	ボランティアの管轄を市にしてほしい →賠償責任 →ボランティアの有償化	・年配の方もボランティアをするようになる ・認知症が減る ・地域住民全員が全員を支え合う	・コラボ糸島 ・学生(中学～大学生) ・シニア
2	乳幼児の子育てに関するサポート不足 ・周りに相談できる人や情報がない ・妊娠後の体調の変化をもう少し早く知れたかった ・双子、三つ子家庭へのサポート ・乳幼児が遊べる公園が少ない	乳幼児をもつ親へのサポートと教育環境づくり →助産師を増やす・専門的な話が聞ける環境を・巡回相談(公民館など)・育児相談からの問題解決(施設の紹介とか) →子育て関連施設のハード面の充実・使いやすい施設に・トイレのチャイルドチェアー・授乳室・飲食スペース →小児科・産婦人科と市の連携	働き盛り世代が糸島市に増えて、 税収アップ	・公民館 ・子育て支援センター ・小児科・産婦人科
3	貧困・いじめ・虐待・自殺・不登校・ひきこもり 孤食・不安(親の共働き・ひとり親・核家族・ひとり暮らし)	子育て支援に関する包括的な組織とシステムづくり →ボランティアの構築 →プレパークの場所を増やす →子ども食堂、地域食堂を増やす →わいわい広場を増やす	糸島市の ・評価が上がる ・人口が増える ・産業が増える ・財源も増える	・公園 ・公民館 ・小学校 ・糸島市

■分科会2 <人と人がつながり助け合うまちづくり> <提案書>

(【政策：コミュニティ・人口減少対策 生涯学習 男女共同参画・多文化共生・人権】)

優先順位	課題(困っていること)	具体的な取組内容(解決策)	成果(理想の姿)	活かすべき糸島市の資源
1	・新旧住民との交流が少ない (地域・文化・世代間)	・全世代が地域イベントの企画運営に参加する(ジュニアリーダー・大学生)	・参加者が増えて、全世代の交流が深まり、地域の絆が強くなる	・九大生 ・ジュニアリーダー
2	・少子高齢化 ・核家族化が進み、子育て世代、高齢者世代が孤立し地域との連携が希薄化 ・商店街の後継者不足	・ファミリーサポート利用 ・高齢者見守り利用 ・古民家を居場所に活用 ・九大との連携 ・人が集まるような魅力あるまちづくり(地域性を活かした) ・商店街のお店の経営力UPの支援をし、外部からの後継者もとり入れる	・育児不安が解消し、子どもが増える ・高齢者の不安が解消 ・多世代が交流でき相互理解が深まる	・ファミリーサポート ・高齢者見守り ・九大生 ・ボランティア ・民生委員 ・共創学部 ・糸島の魅力発信(自然、文化、伝統芸能)
3	・公共交通機関が少ない	・自主運行バスの活用 ・デマンドバスの活用	・高齢者の行動範囲が広がる ・健康増進に寄与	・コミュニティバス ・自主運行バス

■分科会3 <みんなの命と暮らしを守るまちづくり> <提案書>

(【政策：防災・減災 消防 防犯・交通安全】)

優先順位	課題(困っていること)	具体的な取組内容(解決策)	成果(理想の姿)	活かすべき糸島市の資源
1	・災害時の行動	・避難訓練の実施 ・消防団員の増員	・自分の身は自分で守る ・地元を地元で守る	・糸島市民
2	・インフラの整備	・公共工事の増加 (上水道・電柱・歩道・通学路・池・川)	・防災・減災へ ・交通安全	・糸島市民の声
3	・コミュニケーションの減少	・地域行事の充実	・近所づきあい	・近所の人

■分科会4 <健康で安心して暮らせるまち> <提案書①>

(【政策：健康・医療 高齢者福祉 障害者福祉 地域福祉】)

優先順位	課題(困っていること)	具体的な取組内容(解決策)	成果(理想の姿)	活かすべき糸島市の資源
1	・交流が希薄化している	・子どもや高齢者、多様な人が集まれる場所をつくる	・孤立化がなくなる	・公民館 ・小学校・中学校 子どもが集まる場所 ↓ 自然と高齢者も集まる
2	・インフラが整っていない	・バリアフリー ・自主運行バスを増やす	・安心して活動できる	


■分科会4 <健康で安心して暮らせるまち> <提案書②>

(【政策：健康・医療 高齢者福祉 障害者福祉 地域福祉】)

優先順位	課題(困っていること)	具体的な取組内容(解決策)	成果(理想の姿)	活かすべき糸島市の資源
1	・高齢者の移動手段	①コミュニティバスの路線・回数を増やす ②高齢者の利用料負担の低料金化 ③ドライバーの確保と安心して運転できるような十分な保障を行政が行う	①高齢者の外出機会の増加 ②高齢者の自動車運転による事故が減る ③高齢者のフレイル予防	・民間バス企業 ・市役所 ・地域住民
2	・市内で完結できる医療体制を整えられていない	①急患の受入れが十分な体制を整える	①総合病院ができる ②たらいまわしにされず、十分な医療を受けられる	・市内の各病院 ・廃校になった校舎・空き教室
3	・ひきこもり	①当事者家族が相談できる場や集まりの周知 ②専門の相談員が支援する ③子どものころから地域とのつながりをもつ。交流の機会をつくる	①家で仕事ができる仕組みを整える(パソコンなど) ②地域行事に関わる ③社会復帰、自立できる	・地域住民(コミュニティ) ・市役所・福祉団体 ・ひきこもり支援団体
	・若者が地域課題を知らない、機会がない	①学校で地域のことを学ぶ授業を行う ②地域で交流する機会をつくる(草取り・掃除から)	①若者が現状を理解する ②自分に何ができるかを考え実行する ③高齢者が若者に協力して住みやすい地域を一緒につくる	・学校 ・地域住民 ・市議員

■分科会5 <糸島ブランドで活気あふれるまちづくり> <提案書①>

(【政策：観光 第1次産業 地域経済 企業誘致】)

優先順位	課題（困っていること）	具体的な取組内容（解決策）	成果（理想の姿）	活かすべき糸島市の資源
1	人づくり ・若者流出と戻ってきて働く場所がない (魅力的な仕事場がない)	<ul style="list-style-type: none"> ・地元経営者(企業)と若者の交流の場づくり ・気軽に学びあえる経営者勉強会の場をつくる ・糸島中小企業の現状調査(意識調査) 	<ul style="list-style-type: none"> ・若者が地元で就職 ・若者が戻って、イキイキと働く(地元で) 	<ul style="list-style-type: none"> ・活躍する先輩経営者 ・地元経営団体 ・九大・九大生
2	産官学のコラボがまだまだ少ない (一部に限られている)	 <ul style="list-style-type: none"> ・糸島市内の小中高の学生が地元企業に訪問するなどのアクティブラーニングの場の設定(単位化) ・産業別九大連携の場をつくる ・中小と九大生(高校生)の交流の場(継続!!) ・多文化交流→共生 	<ul style="list-style-type: none"> ・糸島全産業の活性化(レベルアップ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の若者(小・中・高) ・九大生・九大講師
3	ブランドイメージの固定化	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方サミットやシンポジウムを開催 ・生き方シンポジウムの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・糸島の「人」(生き方)自体をブランドにしたい(魅力) 	<ul style="list-style-type: none"> ・糸島市在住で自分らしくイキイキと働いている人 ・現状の情報発信力


■分科会5 <糸島ブランドで活気あふれるまちづくり> <提案書②>

(【政策：観光 第1次産業 地域経済 企業誘致】)

優先順位	課題（困っていること）	具体的な取組内容（解決策）	成果（理想の姿）	活かすべき糸島市の資源
1	市外から訪れる人のために有効な交通機関がない	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの運行の再考 ・自転車・徒歩での観光への配慮 	<ul style="list-style-type: none"> ・車がなくても糸島の魅力を満喫できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊富な訪問のテーマ ↓ ◎食事 ◎食材 ◎神社 ◎海岸 ◎寺 ◎登山 ◎お祭り ◎歴史 ↑ 現在、前原駅から歩いていけない範囲は訪問しにくい
2	前原駅と海岸の間の交通手段	<ul style="list-style-type: none"> ・消費地点(食事・観光)まで、一からの送迎 ・レンタサイクルの整備・電動化 		
3	<ul style="list-style-type: none"> ・東京・大阪からのお客さん 飛行機・新幹線で来る ↓ ・前原まで一本で来れるのにその先の交通機関がない ・海上交通の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・自動配車・自動運転の交通 ・乗りあわせて移動できるシステム ・セグウェイ、免許不要・年齢不問の乗りもの 		

■分科会6 <快適で住みよいまちづくり> <提案書>

(【政策：都市機能 交通環境 地域内交通 上下水道 環境】)

優先順位	課題(困っていること)	具体的な取組内容(解決策)	成果(理想の姿)	活かすべき糸島市の資源
1	交通が不便 ・交通網はあるが数が足りない ・来たバスには人が乗っていない	地域内交通 ・AI・アプリ(乗り合いタクシーなど)などを利用し、空車率をさげる ・各機関(デイサービス、保育園、病院など…)の保有する交通手段を結合し、相互利用できる仕組みをつくる ・レンタルサイクル	→空車率の低下	
2		拠点間交通 ↓ 3つの拠点を中心としたまちづくり 地域性を守る!! ・従来の交通手段の維持 (上記、空車率の低下が上手いけば、本数も増やせるはず)	→本数の増加(利便性) バス会社さんはこちらに特化?	
3		都市機能 ・住…拠点周辺に ・職…福岡市へ 糸島市郊外へ(魅力をいかした職づくり) ・学校・公園…各拠点の周辺に (総合運動公園・プール) 現在…住(郊外)→職(中心)の形から 住(中心)→職(郊外)の形をめざす (拠点周辺) ↓ 3つの拠点をコンパクトシティのようにしてインフラの充実を果たす 緊急車両(タクシー) ・タクシー以上、救急車未満の時に 観光バスをつくる ・生活バスとの住み分けを	→病院・通学が容易に  →渋滞の緩和 交通利便性の向上 →交通量の少ない道で交通面での安全性の向上	・製造業(農産物・水産物) 自然資源 歴史資源 ⇒学生ガイドを育て 観光資源 活用する (小中高大・公民館) を活かした仕事を!



第2次糸島市長期総合計画策定における まちづくり市民委員会

～みんなで語ろう！糸島の魅力について～

発行年月：令和2年2月
糸島市 企画部 経営戦略課
〒819-1192 福岡県糸島市前原西一丁目1番1号
TEL：092-332-2061(直通)
092-323-1111(代表)(内線 1313)